図書室へ行こう

町生涯学習センター・図書室

☎ 096-234-2447（内線331）

■開館時間　午前９時～午後５時

■休館日　毎週火曜
年末年始

■貸出冊数　１人５冊まで

■貸出期間　15日間

■白旗小児童が図書室を見学

11月14日（木）白旗小学校（原田加代子校長）の2年生15人が図書室見学に訪れました。図書室職員による絵本の読み聞かせの後、児童から、図書室の蔵書数や仕事の内容、おすすめの本は何かなどの質問がたくさんあり、図書室への関心の高さを感じました。その後は書棚を見てまわり、それぞれの発見があったようでした。福岡蒼唯（あおい）さん（芝原区）は、「読み聞かせが楽しかったし、面白い本を教えてもらいました」と感想を伝えてくれました。これからもさらに本に親しんで欲しいと思います。

▲図書室を見学する白旗小児童たち

■0歳児からのおはなし会について

図書室では、毎月第2木曜日に「0歳児からのおはなし会」を行っています。絵本の読み聞かせや、手袋人形、手遊びうたなど楽しい内容です。子育て中の保護者の皆さん、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちとお気軽にご参加ください。

●**日時**
1月9日（木）午前10時30分～

●**会場**
おはなしのへや（甲佐町生涯学習センター・図書室内）

新着図書紹介

小説

架空犯
東野 圭吾 著／幻冬舎

燃え落ちた屋敷から見つかったのは、都議会議員と元女優夫婦の遺体だった。華やかな人生を送ってきた二人に何が起きたのか…。物語に引き込まれ、複雑な人間模様に感情が揺さぶられる一冊。「白鳥とコウモリ」シリーズ第２弾です。

婚活マエストロ
宮島 未奈 著／文藝春秋

40歳のこたつ記事ライター・猪名川健人は、とある零細婚活会社の紹介記事を引き受ける。地味な婚活パーティーに現れたのは、驚異のカップル成立率を誇る伝説の司会者・鏡原奈緒子だった…。「成瀬シリーズ」の著者が送る痛快な物語です。

五葉のまつり
今村 翔吾 著／新潮社

豊臣秀吉の公私に亘る大事業を縁の下で支え、五奉行と呼ばれるようになった男たち。石田三成、増田長盛、浅野長政、長束正家、前田玄以は、力を合わせて難事に立ち向かう。命と矜持を賭けた任務への挑戦。読み応えのある一冊です。

一般書

これ１冊でわかる！蔦屋重三郎と江戸文化
伊藤 賀一 著／ Gakken

江戸吉原の小さな地本問屋からスタートし、先見の明とべらぼうな熱量で、大衆文学や絵画をカルチャービジネスへと昇華させた蔦屋重三郎。喜多川歌麿、東洲斎写楽らを見出した江戸のメディア王の、波乱万丈な人生を解き明かす一冊です。

アレの正しい使い方図鑑
東京トリセツ研究会 編／山と渓谷社

電卓のＭ＋ボタンの使い方は？クリアファイルの三角の切り込みは何？キッチンばさみのギザギザは何に使う？日々の暮らしから防災、アウトドアまで、知っているようで知らない、道具の正しい使い方を伝授。すぐに役立つ一冊です

船上の助産師
小島 毬奈 著／ほんの木

紛争、暴力から逃れるため、人間らしい生活をするため、命がけで海を渡って逃げてくる人たち。その中には妊婦や乳飲み子を抱えた母親もいる…。地中海の難民救助船にて活動する、ただ一人の日本人助産師のリアルな手記です。

文化財探訪

～第125回～

「南三箇の太平観音堂と大平堤」

町文化財保護委員　赤星 眞照（有安区）

南三箇の大平観音は、熊本南カントリークラブ（ゴルフ場）の中にあります。ゴルフ場の一角に、こんもりとした神木と共に三基の石碑が並んでいます。その一つの石室には、嘉永2年（1850年）に建立された十一面観音が祀られています。

この大平観音の横には、水を湛（たた）えた大平堤があります。この堤は、江戸時代末期の三賀村（現在の南三箇）で、重い年貢に苦しみながらもそれを乗り越えた村人たちの歴史そのものなのです。

当時の三賀村は湿田や白真土（しらまつち）の畑、そして高すぎる村高が原因で年貢を払えず、荒れ地が増えていました。村人たちは水田改良や畑の水田化を試みましたが、堤の決壊や借財の重圧に苦しみました。最終的に堤を再建し、段々畑を棚田に変えることで村の再生を図りましたが、借金返済に四十四年を要しました。

それでも村は立ち直り、村人の喜びは大変なものでした。この年の秋、収穫を感謝すると共に再び決壊しないようにと堤防上に建立されたのが、この大平十一面観音です。その後も昭和や平成に至るまで改修が続けられました。南三箇の歴史と重なるのが大平堤であり、大平観音堂です。

なお、現在大平観音堂と大平堤は熊本南カントリークラブ内にあり、飛んできたゴルフボールによるケガなどの危険がありますので、見学はご遠慮ください。

◀熊本南カントリークラブの中に建立されている太平観音堂

お問い合わせ先　町社会教育課　☎096-234-2447（内線324）

人権 ～心豊かに暮らすために～

部落差別などの人権問題の解決を目指して

■第75回全国人権・同和教育研究大会が開催

11月30日（土）・12月1日（日）、「第75回全国人権・同和教育研究大会」が開催され、本町からは教職員、行政職員などが参加しました。

同大会は、「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」～部落問題を解決し、人権文化の創造をはかるために、同和教育の充実と発展をとおして人権教育・人権啓発を構築していこう～というテーマで開催。全体会は熊本市民会館シアーズホーム夢ホールで開会行事、基調提案、地元特別報告が行われ、分科会は3つの県（熊本県、福岡県、鹿児島県）で、学校教育部会（16分散会）、社会教育部会（4分散会）、特別部会に分かれ研究・実践報告が行われました。

「特別部会」の特別分科会では、「結集しようにんげんの光！信じよう人の世の熱！～であう つながる『ひとなかま まち』～」をテーマに、部落問題をはじめさまざまな人権問題についての4つの講座が開設。第1講座では、講師の公益社団法人全国人権教育研究協議会代表理事の戸田雅威さんが「『わたしと同和教育』～71年めの全人教に寄せて」と題して講演されました。今でも心に残っている教員時代に出会った子どもたちにかけられた言葉やエピソード、長年勤めておられる地元県人教代表理事や全人教代表理事などでの取り組みなどを詳しく説明されました。

その他の講座でも、満州移民として中国に渡った来民開拓団の隠された「真相」について知り学ぶ講座や人権劇団「光座」による部落差別（同和問題）をテーマにした演劇「ひとつだけ」、パレスチナのガザで起きているジェノサイドの悲惨な現状を伝え考える講演などが行われ、すべての人が安心して生活できる「水平のよき日」を目指し考える良い研修となりました。

●お問い合わせ先
町社会教育課
☎096-234-2447（内線327）